

阿武隈川水系の 安全安心な 漁業・遊漁再開へ

水産業復活の
切り札



環境放射能研究所 准教授

和田 敏 裕

WADA Toshihiro

研究室 URL <http://researchmap.jp/hoshiarei1>

[専門分野] 魚類生態学、水圏資源生態学、水圏放射生態学

【プロフィール】京都大学大学院農学研究科博士課程修了(農学博士)。震災前は、福島県水産試験場研究員としてカレイ類を中心とした海産魚類の増殖や資源生態に関する調査に従事した。震災後は、海産魚介類および淡水魚類の放射性セシウム汚染に関する研究に取り組んでいる。

福島第一原子力発電所の事故が起きるまで、阿武隈川水系はアユ釣りや溪流釣り、コイ養殖業などが盛んで、たくさんの人々で賑わっていました。しかし、事故直後に降下した放射性セシウムにより、流域全体が汚染され、漁業、遊漁が休止を余儀なくされています。淡水魚は、体内の塩分調整に関する生理特性により、海水魚に比べ、放射性セシウムを排出するまでに時間がかかります。そのため、汚染降下物の影響を強く受けた流域北部では、現在もヤマメなどから基準値(1キロ当たり100ベクレル)を超える放射性セシウムが検出されています。

私は現在、阿武隈川の水域環境モニタリングのほか、食物網を介した淡水魚の放射性セシウム汚染について調査研究を

しています。川虫などを餌とするイワナやヤマメは、基準値を超える検体が散見されますが、苔についた藻類を餌とするアユは概ね数十ベクレルほどに下がっています。これらの要因を探るため、餌だけでなく、環境水や川底の泥、魚体のサイズなどからも分析を行っています。また、寿命が一年であるアユの稚魚を放流し、それを指標に放射性セシウムの蓄積プロセスを解明する共同研究も行っています。

淡水魚の汚染メカニズムを明らかにすることで、将来の汚染予測が可能になり、阿武隈川水系の安全・安心な漁業、遊漁の再開につながると思います。今後はより汚染強度の高い浜通り地域の河川や湖沼についても調査研究を進めていくつもりです。



研究概要

一昨年度まで8年間、福島県水産試験場の研究員として勤務し、ホシガレイやヒラメの放流技術開発や松川浦の幼稚魚調査など、漁業資源の増殖に関する業務に従事しました。震災後は、放射性物質モニタリング業務に携わり、福島県の漁業再生をサポートしてきました。今年度から福島県内水面水産試験場と協力して、淡水魚類の調査研究にも取り組んでい



ます。今後も、海面・内水面魚類の調査研究を通じ、福島県の水産業の再生・復興、地域社会の活性化をサポートしていきます。

こんなことができます!

福島の漁業・水産業の復興や活性化をサポートします

想定するパートナー

被災自治体及び漁業関連団体など

具体的な連携、事業化のイメージ

調査協力、結果広報、活性化政策など

これまでの取組事例

福島県水産試験場、福島県内水面水産試験場と連携して震災後の放射性物質モニタリング結果を取りまとめ、成果を報告してきました。福島県の沿岸部の再生過程や、安全・安心な試験操業の取り組み等について学会、著作物等を通じ、国内外にアピールしています。

関連情報

Radiological impact of the nuclear power plant accident on freshwater fish in Fukushima: an overview of monitoring results. Wada et al. (2016) J. Environ. Radioact. (151 : 144-155)

Effects of the nuclear disaster on marine products in Fukushima. Wada et al. (2013) J. Environ. Radioact., 124: 246-254

福島県の漁場環境と漁業の現状と課題. 和田敏裕 (2015) 月刊海洋 Vol. 47, No. 1, 10-17

私たちの研究室自慢!

現在、世界の中で福島でしかできない研究をしています。子供たちが安心して海や川で遊び、魚を食べることができるように、研究を続けていきたいと思ひます。

